

会 議 録

1 会議名

令和6年度第7回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和6年12月10日（火）午後6時30分から午後7時55分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 磯田一裕（会長）、田中美佳（副会長）、古澤悦雄（副会長）、青山藏吉、今川芳夫、関澤隆一、関谷照子、田中 実、田中由美子、土肥 優、古谷信人、保坂邦之、増田和昭、丸山岳人（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：青山委員、増田委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的な審議について、先日、皆さんと一緒に視察研修を行ったので、感想や見て回った中で一番印象に残っているところなど、一人2分程度で手短

に感想をいただきたいと思う。

【増田委員】

今回行ったところは何回か視察に行ったが、やはり気になるのは、福島城をどうするかということと、五智公園をどうするかということで、今までも地域協議会として取り組んできたけれども、これからも地域協議会として、先頭に立ってやっていく必要があるのではないかと思った。

【保坂委員】

今回、よく知っているところばかりだったが、知っているだけで理解していなかったことが、非常に私としては不甲斐なかった。

五智公園が特に印象に残っていて、五智公園に関しては何とかしなければいけないと思った。五智地区は歴史的なものが豊富なところということが一番頭に残っているので、その点を外から来る人ではなく、地元の方にも、もっともっと知っていただければと思った。

【古谷委員】

先日の視察研修に参加させていただいて、すべてに共通する課題が高齢化というところで、それに対処するには、若い人たちがもう少し興味を持たないといけないと、全体を通して感じた。

ボランティアの方や、活動されている方たちの方向性が、それで合っているのかというところが疑問に残った視察だった。

【土肥委員】

今回初めて視察研修に参加させてもらった。結婚を機に直江津に来て15年になるが、初めて福島城資料館へ行ったり、初めての体験が多かった。五智国分寺の三重塔には干支が描かれていることなど全然知らなかったので、まず地元の人から知ってもらい、その良さを地元の若い人にも伝える。そうすることで県外の人たちにも伝えられると思う。上越は、山もあって海もあっていいところなので、若い人たちが、「上越何もない。つまんない。」と言うのを変えていきたいと思うので、これからも頑張っていきたいと思った。

【関谷委員】

私も結婚を機に直江津に来て40年以上も経っていながら、貴重なものがあるのは知っていたが、関心を持たないままここまでできてしまった。今回、視察に参加させていただいて、こんなにすばらしいところがたくさんあったのに、今までなんともったいなか

ったのだろうかと思うぐらいだった。若い方がそういうふうに思ってくださいるのはすごく嬉しいし、そこを何とか広げていける方策を考え出せたらいいと思った。

【関澤委員】

五智公園をご案内いただいた、五智公園を育てる会の会長、副会長はすでに80代である。後継者といっても、専門的な知識が必要なので、おいそれと代わりを見つけるわけにもいかない。さて困ったというように感じている。

また、直江津海水浴場の避難階段が狭く、しかも2か所しかなくて、大勢が避難する際には非常に危ないと感じた。

【今川委員】

五智の名所・史跡は、割と地元の人には知っている方が多いが、市外や県外の方々には余り知られていないようなので、国分寺や居多神社等をもっとアピールして、来てもらうようにすればいいのではないかと思う。

避難階段については、若い人はいいが、あの階段は高齢者にはきついのではないかと思った。

ひまわり會が整備している居多ヶ浜シーサイドラインについては、整備してくださっているところは綺麗だが、草刈りをしていないところにはごみがいっぱいある。私は、そこからうみがたりまで側溝を清掃したことがあるが、大きい袋に二つは必ず溜まる。ペットボトルや缶がすごく多い。その辺が残念だと思う。

【青山委員】

まず福島城へ行って、それから各名所を回ったことで、観光は単独ではなく連帯で紹介するような方式にしたほうがいいのではないかと思った。

言うは簡単だが、予算も必要なので、できないこともいっぱいあるだろうが、一つずつ重点的に解決していくのがいいのではないかと思った。

【田中美佳副会長】

福島城を愛する会について、前期の地域協議会の研修で伺った際も思ったが、後継者についてどうするのかとお聞きしたところ、以前と変わらずいない状態だった。皆さん一生懸命なのだが、見つける手段を見つけられない。そういうことのお手伝いが地域協議会でできるのではないかと考えていて、いろいろな課題がいっぱいあるが、後継者がいないといいものがなくなってしまうので、皆で考えていけたらと思った。

【古澤副会長】

私も、福島城に直江津の文化と歴史を感じているし、後世に伝えていかなければいけないと思っている。

福島城資料館はレイアウト的に非常に狭くて、もっと広々とできればいいのではないかと考えている。

後継者不足については、上越観光コンベンション協会あたりと連携したほうがいいのではないかと考える。

五智公園については、会長、副会長、会員の皆さんのきめ細かな地道な活動が積みあがって、あのような素晴らしい公園になっているのではないかと考えた。

後継者不足等々言われているが、地域協議会でもこれらを検討しながら、皆さんの応援ができればと思った。

いろいろな団体の方とお会いできたが、もっと団体の方の話を聞きたいと思った。

【磯田会長】

それぞれの団体の人たちと地域協議会で意見交換をしてきた経緯からすると、団体に後継者の育成や、活動の活性化に動くような仕掛けをしていっても、なかなか難しいところがあると感じている。例えば、今回視察研修に行った福島城や五智公園、三八朝市の話等については、なかなかプッシュしていても難しいところがある。そういうところは、地域協議会自らが動いていくような活動をしないと、市におんぶに抱っこ、あるいは、ずっと待っていても仕方がないと改めて感じた。

我々がどういうふうにコミットできるかというところはあるが、今までのように議論だけしていただいただけではどうしようもないと考えていて、何か協議会としてアクションを起こしていく、団体の行く末を考えながら別な道を探るというようなことをしていけないのではないか。そのための自主的審議というのが、今日はこのテーマでというようにテーマを少し絞って話す。そして、ある程度まとめみたいなのができたり、今後どうしていったらいいのかといったところまで皆さんと議論して、関係する人たちに話を通していきながら、それを動かしてみる。何か違うアクションを起こしていくようなことを、いくつかの場所でやっていかないと、世代交代や、新しいプレイヤーの創出は難しいのではないかと考えた。

せっかくなので、視察に行ったところの話について、こうした方がいいのではないかとか、私はこういうふうに考えているというようなことがあれば、意見を出していただきたい。

【田中美佳副会長】

まず、福島城資料館のことだが、資料やお話はとても素晴らしいが、説明の仕方をマニュアル化するといいのではないか。個人でとても多くの知識を持っていらっしゃるが、話したい内容が多すぎて、まとまりがなくなってしまうので、そこをコーディネートできる人がマニュアルにまとめて、後世に残すというようにしないともったいないのではないかと思った。

【増田委員】

福島城資料館はトイレが使えない。電気も通っておらず、発電機を回さないと使えない。場所も狭い。福島城を愛する会の皆さんもどうにかしたいと思っているが、行政と話してもなかなかうまくいかないという実態がある。

また、会の存続については、今まで牽引してきた方々の、高齢化や死去により、弱体化してきている状況である。

このことから、先ほど会長が申されたように、もう少し具体的に福島城に関わった人たちと意見交換をして、必要に応じて行政と那些人たちを含めて地域協議会で話をするというふうにもって行って、その中で解決策を生み出していくということが必要ではないかと思っている。

【古澤副会長】

福島城については、文化行政課に働きかけてみるのと、先ほど私が言った、観光コンベンション協会もどうかと思っている。観光コンベンション協会については、どこまで手を出していただけるのかということになるが、直江津の観光の一環として素晴らしいものがあるので、そこから紐解いていったほうがいいのではないかと思っている。

【磯田会長】

福島城の話については、実は、2年くらい前に水面下で動いたことがあって、資料を市の埋蔵文化財センターで管理してもらおうということを模索したときがあり、市は受け取ると言っていた。ただ、第一級の歴史資料ではなく、内容の正確さを判断する中で、市の文化財というレベルにはならないだろうということであった。そのうえで、この地域にあった福島城の歴史に関する資料ということで、展示することはできるだろうというような話があった。

それから、高田開府400年のときに、市は、春日山城、福島城、高田城を三城物語と言っていたが、埋蔵文化財センターに行くとその三城物語のコーナーがあるので、福

島城の発信もできると思う。ただ、当時の小林古径美術館の館長さんと話した中では、場所としてはやはり現地にあった方がいいということで、佐渡汽船ターミナルの展望台にジオラマを置いて、そこで説明をして、俯瞰して福島城址を見るというような、現地に歴史の資料もある程度持っていたほうがいいのではないかというような話も途中までしていた。

団体存続の話や、資料の持ち主の話などがあって、止まっていて、2年ぐらい経っているというような感じである。

だから、我々としてどのように関わっていくかということをもう少し考えなければいけないし、それから先ほど田中美佳副会長が言っていた説明の仕方も、現代風にもう少し分かりやすくし、不意のお客様でも対応できるように考えていかなければいけないと思っている。

このほか、皆さんからここで話したいというようなことはあるか。

(意見なし)

この後事務局から、自主的な審議の進め方を説明していただくので、またそれを聞きながら意見交換させていただければと思う。

では、事務局へ資料の説明等をお願いしたい。

【石崎係長】

先日は、協議会で今後話し合う内容の検討のために視察研修を実施したところだが、改めて自主的な審議の流れについて確認をしたいと思う。

- ・資料No.1「自主的な審議とは」に基づき説明

今後の流れとしては、大きく2パターン考えられると思っている。

一つは、このまま②のほうの地域協議会での協議に進んで、現在把握している課題の中から、話し合うものを決めていくというものと、もう一つは、もっと広く課題を認識していくために①の地域課題などへの気付きをもう少し継続して、今目を向けている事柄以外にも目を向けた上で、話し合うものを決めていくというパターンが考えられると思っているが、今ほど説明したパターンを参考に、今後の進め方について協議会の中でご検討いただきたいと思う。

【磯田会長】

直江津区地域協議会では、直江津の抱えている課題全般についての議論をしていく「直江津まちづくり構想」と、地域防災力の向上に向けた検討を行う「地域ぐるみの防災活

動の推進」が自主的審議事項として継続している。

今ほどの事務局の説明では、現在把握している課題の中から話し合っていくものを選んでいくのと、またはもう少し幅広く地域の課題に目を向けて、その中からまた議論するものを見つけていくという、大きく2パターン考えられるとのことであった。

どういうふうな議論の進め方をすればいいのかご意見をいただきたいと思う。

私個人としては、どちらか今日決める必要はないと思っていて、この中でどういう方向性で議論をしていったらいいのかというような話を、ある程度共有できればいいと思うが、いかがか。

【青山委員】

今回視察して回ったところの課題を全部やるのは無理だと思うので、もう少し重点を絞ってやっていければと思う。任期は4年間あるが、例えば、今年は福島城というように、1年間はこれを重点的にやると決めてやっていかないと難しいと思う。

それから、福島城資料館について、常駐の人はいない、電気は止まっていて、発電機を回さなくてはならないと、まことに寂しい状況であった。

あのような場所では、人に訪れてもらうのは難しいと思うので、先ほど話のあった佐渡汽船の展望台でもいいから、人がいるところに移して、誰もが見られるところに持っていったうえで、人を呼ぶことを考える。そのほうが前に進みやすいのではないかという感じがした。

【磯田会長】

青山委員の言うとおりに、すべてを網羅してここで議論していくのはなかなか難しい話なので、どちらの方法で進めるにしても、私たちの中でこれは重点項目だというものを議論していく形になるのではないかと考えている。

防災の件についてはいかがか。

【関谷委員】

この間の日曜日に、震災時に避難した町内会のお話を聞く機会があった。虫生岩戸の地域の人たちは、避難して高いところに行っても、寒くてとてもいられないというお話であった。旧斎場はトイレもあるし、部屋もあるので、すぐに解体等にならないのであれば、一時的にでもあそこを緊急避難場所として使えたらいいのではないかと考えた。

【土肥委員】

課題がありすぎて、何から手をつけていいのかまだ分からない状態である。

この前、市が社会実験で行っている屋台会館のイベントに出させてもらった。正直、お金をかけてこれかという感想だった。これから、もっと市の魅力創造課や委託を受けている業者さんと意見交換などやっていかなければと思う。

まず何をやればいいのか分からないが、いろいろ皆さんと話し合っ、他県から来た人にお金を落としてもらおうようなことや、観光等にも力を入れたり、私の中でもう一回整理したいと思った。

【磯田会長】

古谷委員、例えば企業側の観点で、こういう注力の仕方のほうがいいのではないかなど、何かご意見あればいただきたい。

【古谷委員】

無印良品は、2020年の7月にオープンして今年5年目で、いい意味でも悪い意味でも地域に馴染んできていて、あつて当たり前のような感じになっている。出店したときは、新しいものや珍しいものが好きな地域の方が結構来店されたが、今は開店のときに想定していた売上げ以上は維持できているが、売上げがどんどん右肩下がりになっているので、危機感を感じている。

地域にもっと刺激というか、新しいこと、珍しいことがあれば、お客さんは来てくれるのではないかなと思うが、一方、今、この地域で生活されている方たちが外に出て行かないように、いつもの暮らし、安心、安全というところも、もっとしっかり考えていかないと、外から来られる人のことばかりを考えても、結局、今住まれている方のことをしっかり考えていかないといけないのではないかと考えているところである。

【磯田会長】

観光は、どこにターゲットを持っていくのか、どのくらいのキャパのことをイメージしているのか、地元がおもてなしできる範囲はどの辺までなのか、といったことを考えていくと、やはり、地域に根をしっかりと張って、地域間、地域内流通も含めて地域内の活性化をまず図っていくということが、最初のところではないかと思っていて、その中で、地域の人たちの暮らしが、楽しくなる、新しくなる、やりがいのようなものが見つかるといったところを、まず狙っていくべきだろうと常日頃思っている。

どこまでを直江津の観光として、地元の我々がやるべきかということと、広域プロモーションのような、市が考えなければいけないところ、そういうことも含めて、地域協議会が注力していくべき課題というのはどこにあるのかというのを、いくつか自主的審

議のテーマとして挙げて、それをどのような議論の仕方でやっていくのかというあたりの話を、さらに深掘りしていければと思っている。

【保坂委員】

今ほど地域内の活性化という言葉が出たが、うみまちアートを例にとると、第1回的时候は地域の人誰も知らなかった。一部の人だけが動いていたから、不発に終わったような印象がある。今、2回目、3回目とやって、それは地域の人達を取り込んでやっているから、だんだん周知されてきたと思う。

私たちのこの議題に関しても、地域内の方たちに、いかに分かっていただけるか、議題を何点かに絞って、県外等ではなく、まず地域の方たちに知っていただくということを、一番に考えてやったほうがいいのではないかと思った。

【磯田会長】

五智地区の視点からご意見あるか。

【関澤委員】

五智地区の人間としては、やはり五智公園を何とかしたい。団体の方々もいつまでも元気でいられるわけではないので、特に専門的知識の引継ぎ、例えば、社会科の先生を探してくるといような何らかの対策を講じないと、何年か先には先細りしてしまうといような危機感を持っている。何とかしたいと考えている。

【丸山委員】

先ほど会長のほうから出た、これまでの直江津区の自主的審議事項の「直江津まちづくり構想」は、中身にどんなものがあつたのかが一つ。

それと、今ほど関澤委員から、五智公園を何とかしたいという話があつた。これは恐らく、子どもや孫、そういった方たちに、何とか残したいという想いがあるのではないかと思う。私もその辺りは、大事にしなければいけない重要なことだと思っていて、その視点を持って審議する課題を抽出していければと思う。

私は、やはり直江津の子どもたちには、祇園祭は残したい、これは絶対残したいと思うし、海岸線をもっと綺麗な形で次にバトンを渡すことができればとも思っている。

【磯田会長】

直江津まちづくり構想については、昨年度、前期の協議会で議論してまとめた地域活性化の方向性の構成要素ごとに直江津の抱える課題を整理した。

その中から、どれを積極的にやっていくか、もっと議論を深掘りしていくかというこ

とを議論していくというのが、昨年度の議論の流れであったと私は思っているが、これを一つ一つ全部やっ払いこうとすると、なかなか大変なこともあるので、何を重点的にやるかということ、まず、皆さんと意見交換をしていく。そして、緊急度や市が取り組んでいないところをどう救い上げていけるか、新しい人たち、若い人たちに魅力のあるものをどう提供できるかということも含めて検討していく。

例えば、五智公園は、我々の子どもの頃は、交通公園があって、青少年文化センターがあって、子どものたまり場だった。そこで野球をやったり、山を駆け巡ったり、キャンプ場もあったし、ああいうところで遊んでいた、いわゆるファミリー層の遊ぶエリアだったが、いろいろな施設もなくなり、そこに魅力がなくなり、今は動植物のエリアという発信しかしていないという状態がある。そういう中で、新しい公園のあり方のようなことを提案していったり、考えていくということが必要ではないかと私は思っている。

これは私の意見だが、そのようなことで、どこにどう注力していくかというのは、もう少し皆さんと議論をしたいと思っている。

【増田委員】

皆さんは、ここにずっと住んでおられるので、何が問題かということはおおよその見当はついている。しかし、今言ったように、そんな大きなものに取り組んでみたところで、どうしたらいいのかということになるので、当面は自分たちの足元を固めようよということになると思う。

そのためにはどうしたらいいかというと、今回視察で見て回って分かったことは、福島城に関しては、行政との連携が今一步進んでないということと、福島城を愛する会の組織自体が高齢化により活動の継続が難しい状況になっており、会のさらなる発展まで考えるのが難しい状況ということが分かった。

五智公園を育てる会もほぼ同じ状況にある。従来からそうだが、行政の役目と会の役目の境目がよく分かっていない。そのあたりをはっきりさせるということで、当面は、それぞれの組織の皆さんから来ていただいて、課題は何なのか、どういうことを将来目指しているのかという話をお聞きする中で、行政に何を求めるのかということをお聞きしながら、行政と私たちが話をして、行政も考えていることがあるはずなので、私たちが両者の考えをお聞きして、ではどうするかと考えていけば、一つ方法が見えると思う。当面はその二つが重点事項だと思う。

それから、防災の関係も課題があるし、それほど悠長に構えていられることではない

ので、その三つぐらいを重点的に取り組んでいくというようにしたらいいと思う。

五智公園と福島城は非常に似ているので、取組の方法はほぼ同じ。防災の関係も、少し進展を見ながら、私たちも状況を聞かせていただきながら、どうしたらいいかということをもみんなで考える。どれを自主的審議にするかではなくて、自主的審議を当面は三つにして、関係者の方から私たちが意見を聞いて、地域協議会として今後どう進めていったらいいかということ、そのあと話し合うというような進め方をしたらいいのではないかなと思っている。

【田中美佳副会長】

今、増田委員からお話があった三つと、もう一つ付け加えていただけるのであれば、やはり三八朝市も以前から課題が出ていたし混ぜてもらえたらと思う。

【関澤委員】

五智公園を育てる会についてだが、年に一回、行政との話し合いの場は持っている。ただ、話の内容というのが、現地の植物がどうだとか、伐採をしなくちゃいけないとか、ベンチを新しくするとか、そういうようなことだけで、人材育成に関しては話が出ない。なので、そこら辺を、会長、副会長含めて、福島城もそうだろうが、話をしていないと、後継者は育っていかないのではないかと感じている。

【増田委員】

五智公園の整備計画については、昨年度の地域協議会のときに、都市整備課から来ていただいて説明を受け、意見交換をした。

意見交換等する中で、五智公園を育てる会も都市整備課も、公園を整備することには力が入っているが、あそこをどうやって活用するか、どうやってPRするか、どうやって市民の参加を増やしていくかというところは、苦手な部分であると感じた。

意見交換の中で行政にそういったところも力を入れてほしいと注文を出してあるが、委員の皆さんが替わられたので、もう一回来ていただいて、その辺も含めて、計画についてしっかり話をしてもらおうと、皆さんも理解が進んでいくのではないかなと思う。

【磯田会長】

今増田委員から三つ、プラス田中美佳副会長から一つ、計四つのテーマが示された。一つ一つのことを深掘りしていくのはこの後なので、まずは、今、増田委員から話があったこと以外で、この件について深く話したいとか、私はこれが気になっているということがあれば、まずお聞きしたいと思うが、皆さん意見はあるか。

【田中由美子委員】

私は五智公園を育てる会に入らせてもらっていて、一時期、役員もさせてもらったが、仕事の関係が忙しくなってきた、先日降ろさせてもらった。

最初に参加させてもらった頃は、よく分からないで参加させてもらっていたが、植物のことやイノシシ等の害獣被害について知っていくと、非常に大変な活動であると知った。

若いメンバーは、どうしたらいいかということで、いろいろな企業さんを回って協力をお願いしたり、会費も、メンバーになった人が年会費一口500円を払って、ボランティアのような感じで、日曜日等に活動を実施したりしている。

上越市にはたくさんの方が住んでいらっしゃるが、こういったことを知らない方がたくさんいらっしゃる。だから、どんどんアピールしたいとも思うが、どうしてやっていかよく分からず、とても歯がゆい思いでいる。

正直なところ、地域協議会に入らせてもらった動機はそこも大きい。難しい問題もあるので、良いご意見があったらぜひお願いしたい。

【土肥委員】

先日、川渡餅を食べる日だった。土日だったので、月曜日に子どもたちに川渡餅を食べたか聞いたら、みんな知らなかった。それはお菓子組合としても大変致命的なことで、この子たちが大人になったときに食べなくなる。三世代で住んでいた時代は、祖父・祖母が買って来て食べていた身近な存在で、私がこの地区に来たときには、こんなにみんな買うのかと驚いた。文化の一つと感じた。

地元の生活に密着した一つ一つのことがやはり大事で、未来につなげなければいけないこともたくさんある。子どもたちに「きなこの餅」と言われたときには、もう本当にやばいこれと思った。

食中毒があった話も知ってはいるが、小学校の給食等でも12月には給食献立に載せてもらうよう声を上げたりしている。

五智公園もそういう文化も、伝えていきたいと肌身で感じたので、ご報告させていただいた。

【磯田会長】

皆さんの意見をお聞きしていくと、福島城、五智公園、防災、プラス三八朝市、この4点をまず議論を深めていったらどうかというお話があった。

実際に担われている団体の高齢化等もある。三八朝市も、あと5年で多分出店者はいなくなると思う。

そういう状況の中で、どう考えていくかということ、ある程度、地域協議会が案を示しながら町の人たちをその気にさせていく、そんな協議会にならなければいけないと思う。

団体さんの話を聞くのもいいが、既に何回もやっていたり、今回、視察のときに、いろんなお話をお聞きしたりしたが、団体さんの課題と、福島城や五智公園そのものをどうしていくのかという問題は、解決の手だてが別の次元なところもある。

団体さんの存続とともに、もう少し新しい血を入れていかなければいけないというような注力も必要になってくると思うので、これからより深めた議論を皆さんとしていきたいと思っている。

【関澤委員】

今、四つの課題を挙げていただいたが、私が先日の視察研修で一番感じたのは、直江津海水浴場の避難階段。あれは危ない。海水浴客が10人、20人であればいいが、何百人という方がそこで泳いでいて、地震でも来たら、我先にとということで喧嘩どころの騒ぎではないと思う。あれをもっと増やすなり、急な上り坂をもっと斜めにするなり、何らかの対策を考えないと、いざというときには2次災害ということもある。そちらのほうが優先ではないかと考えている。

【磯田会長】

私も、あの階段は2次災害が起きたらどうするのかという心配が先に立った。200kgの荷重制限ということは、私みたいなのが3人あの階段を上がればもうアウトである。そういうことを考えていくと、非常に大きい問題だと思う。今、テーマの中で出ている防災というところに包含される課題だと思う。あの部分については、防災のテーマ中で議論を優先的にやって、意見書なり何かの形で、早めに出していくようなことがあってもいいのではないかと私も思う。

【古谷委員】

点にこだわりすぎているような感じがしている。あの2か所の避難階段を架け替えてみんな助かるかという、そうではないと思う。もっと防災教育のようなところ等に取り組んでいった方がいいのではないかと。

うちの無印良品では、今上越市の小学校全部に防災教育をしようということで、取り

組んでいるが、そういうことを一緒にやってくれるような企業さんや、賛同して下さる方がいらっしゃらない。けれど、防災の事業をすることによって関係性ができて、今日もエルマールに安塚の小学校が大根を売りに来ていて、それを買いにお父さんお母さんが来てくれて、来店につながる。

一つだけ、その事柄だけを見ると、なかなか商売にはつながらないが、そのあとで、いろいろつながっていったりするということもある。その階段のところも、作りは弱いですが、そこを使う方は限られている。もっと大きく、上越市全体で、直江津地区全体でもっと危険なところはないのかといったことを話していったほうがいいのではないかと思った。

五智公園についても、高田公園や市役所、図書館の周辺は、委託を受けた業者が整備を行っているので、五智公園もただ都市整備課に任せるのではなくて、五智公園を育てる会が整備等の委託を受けて、活動に対するお金をもらって、それで公園を活性化していくというようなところをもっと考えていったほうがいいのではないかと思った。

糸魚川市の徳合に、フィッシングセンターのところの自動販売機の売上で活動されている方がいる。五智公園のところも自動販売機が置いてあるが、そのお金はどこに行っているのか。

商売や活動資金も考えていかないと、多分これから先、活動の継続は難しいのではないかと。ボランティアばかりではしんどいので、マネタイズというところも考えたほうがいいのではないかと思った。

三八朝市も自分たちが2020年の5月からずっと出店しているが、多分皆さん来たことがないのではないかと。三八朝市がなくなるとか、危機感を持たれている方に限って買い物に來られていない。雨が降っても、出店者の方は來られているが、それを買ってあげないと商売につながらないので、スーパーもあるが、月に1回ぐらい土日の開催になるとときには三八朝市に行くとか、そういうことをやらないと、なかなか続いていかないのではないかと。危機感を皆さん持たれているけれど、実際に動いていらっしゃるのかというところをすごく感じた。

三八朝市は、1回出店するのに120円である。どうなるか分からないが、土日はフリーマーケットのような形で使っていただくのも、周知次第では利用が見込めるのではないかと思った。

【磯田会長】

自分たちが楽しんで活動できて、なおかつ、一生懸命活動した分の対価として稼ぐ部

分を作っていないと続かないと思う。そういう部分をいかに考えていけるか、そういったことを考える場所が地域協議会であるし、ある意味では地域協議会が少しプレーヤーになっていくようなことをしていかないと、活動が弱っている団体に任せているだけでは、難しくなっているということも事実だと思う。

先ほどの、三八朝市のアイデアのようなことも含めて、議論していければと思っているので、今後自主的な審議として、先の四つの項目でこれから議論していくということで、皆さんよいか。

(委員同意)

では、その方針に基づいて進めていくということをお願いする。

次回、もう少し、その四つをどういうふうに進めていったらいいかや、議論のやり方、例えば、項目ごと、課題ごとに、班ごとにやってみるなど、いろいろなやり方があると思うので、もう少しその辺を次回協議していければと思う。その辺は、事務局と相談しながら案内を出したいと思う。

次に、その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

次回の地域協議会について、定例では第2火曜日の1月14日となるが、長期の年末年始を挟むことから、準備期間等を考慮して、1月21日の火曜日でいかがか。

【磯田会長】

今ほど事務局から提案があったが、今回は1月21日の火曜日午後6時30分からでいかがか。

(委員了解)

では、次回開催は1月21日の火曜日とする。

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。